第80期中間報告書

（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）

Specialty Chemical Partner

荒川化学工業株式会社

株主の皆様へ

代表取締役社長　末村　長弘

株主の皆様へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1・2
What is ROSIN?
バイオリンが奏でる音色のヒミツは・・・・ 3・4
ロジンにあり
事業の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5・6
連結財務諸表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7・8
Information
新規ポリイミドフィルムの工業化技術確立・・・ 9
会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに、第80期中間報告書（平成21年４月１日から平成21年９月30日まで)をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期の国内経済は、新興国向けの輸出と生産の持ち直しがみられたものの、昨年から続く景気後退の影響を受け、内需型産業を中心に企業収益が減少するなど、依然として厳しい状況で推移しました。

また、米国および欧州経済は足元で景況感に改善傾向がみられたものの、引き続き深刻な状況にありました。一方、中国を中心としたアジア主要国においては、各国の景気対策により回復基調にありました。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、新製品の開発ならびに既存製品の新規用途開発による高付加価値化を推進するとともに、主力製品のシェア拡大、生産プロセスの合理化や全社的な経費削減などの一層のコスト削減による業績の回復に努めてまいりました。また、水系樹脂、超淡色ロジンなどの環境に配慮した製品の拡販、光硬化型樹脂、精密部品洗浄剤や機能性ファインケミカル製品などの電子材料関連分野での販売を強化し、さらに有機・無機ハイブリッド樹脂、はんだ関連製品の拡大を推進してまいりました。海外におきましては、製品の拡販、中国を中心としたアジア地域の市場開拓を進めてまいりました。しかしながら、国内の需要の低迷が続き、当社グループにおける販売も低調に推移しました。利益面ではコスト削減や高付加価値製品の拡販などにより収益性が改善いたしました。

その結果、当中間期の売上高は266億77百万円（前年同期比21.2％減)、営業利益は14億63百万円（同3.0％増)、経常利益は16億56百万円（同6.5％増)、純利益は固定資産の減損損失（３億60百万円)などがあり６億71百万円（同39.2％減)となりました。

なお、当中間期の配当金につきましては、１株につき12円とさせていただきました。

当社グループにおきましては、さらなる発展を目指して、昨年４月より第２次中期５ヵ年経営計画をスタートしております。この経営計画は、第１次中期５ヵ年経営計画で築いた基盤をより強固なものとし、企業価値の向上を目指すために、４つの基本方針を掲げております。

1．基盤事業（製紙用薬品事業・化成品事業）のさらなる拡大
2．伸長事業（機能材料事業・光電子材料事業）の拡大
3．新規事業・新技術の創生
4．経営・事業基盤の整備と強化

この基本方針のうち、基盤事業のさらなる拡大におきましては、小名浜工場に超淡色ロジンの生産設備を新設いたします。ロジンは黄褐色の樹脂であり、その淡色化は実現困難とされておりましたが、平成元年に無色透明とも言える超淡色ロジンを世界で初めて上市いたしました。超淡色ロジンは、不純物が少なく熱などに対して安定である等の優れた特長を有しており、医療用粘着剤や鉛フリーはんだ用フラックス、プラスチック用添加剤等の付加価値の高い分野で使用され、順調に需要が増加しております。約30億円を投資して平成23年６月に完工予定で、今後の需要増加に対応いたします。

超淡色ロジン

伸長事業の拡大におきましては、大阪工場に光硬化型樹脂および有機・無機ハイブリッド樹脂の生産設備を新設いたします。光硬化型樹脂はディスプレイ向け機能性コーティング剤などを中心に順調な拡大を続けております。約25億円を投資して平成23年２月に完工予定で、需要増加に対応いたします。

新規事業・新技術の創生におきましては、将来の柱となるべき事業の確立を目指し、４月から開発マネジメントシステムの運用を開始しました。

経営・事業基盤の整備と強化におきましては、大阪工場の立体倉庫新設計画が、地球温暖化防止を目的として経済産業省などが主導する「グリーン物流パートナーシップ推進事業」に認定され、工事が進んでおります。これは複数ある大阪市内の外部倉庫を、この立体倉庫に集約することにより、倉庫間の運搬を減少させCO_2排出量とエネルギー使用量を削減し、社会貢献の一端を担うものです。

第2次中期5ヵ年経営計画　キャッチフレーズ

PINE DASH 1000

「PINE」　松の木、当社を代表する原料であるロジンをイメージ、本業重視を継続する
Proactive **I**nnovation for **N**ew **E**ra
（新しい時代へ、新機軸の先取り）

「DASH」　**D**ynamic **A**ction for **S**hining **H**istory
（躍動、輝ける未来のために）

「1000」　当社創業１４０周年となる２０１６年度には、企業成長のひとつのベンチマークである売上高1,000億円を超える姿でありたい

世界経済は回復の下振れリスクを抱えつつ、また国内経済においても当面は厳しい状況が続くなど、事業環境は継続して厳しいことが予想されますが、当社グループにおいては、第２次中期５ヵ年経営計画のキャッチフレーズ「ＰＩＮＥ　ＤＡＳＨ　１０００」を共通認識とし、グループ一丸となって、目標の達成と次なる飛躍へ挑戦してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

バイオリンが奏でる音色のヒミツは ロジンにあり

バイオリンやチェロなど弦楽器の弓の、弦を弾く部分の弓毛。
そのままでは、音は出ません。でもロジンを塗ると、あら不思議。
人を酔わせる美しい音色に早変わり。弦楽器が奏でる優美な調べには、
ロジンが大きな役割を果たしているのです。

バイオリン用
ロジン

ロジンが至福の音色を演出

弓毛には馬の尻尾の毛が使われ、毛の一つひとつには目に見えないほど細かい突起物があります。ロジンを突起物に塗ることで毛の表面に均一にロジンが付着し、弦への摩擦性が向上して美しい音色が生み出されます。

むらなく塗ると、音が研澄まされます

弓毛にロジンを、むらなく塗ってほどよいネバネバ感をキープ。よい音色を演出するためには、ロジンの塗り方もポイントのひとつです。

ロジン

荒川化学はロジンと歩んで130余年

荒川化学は、明治9年の創業以来、130余年におよぶ永きにわたり「ロジン」を原料とするパインケミカルズ（松脂関連化学製品）分野のパイオニアとして地位を確立してまいりました。例えば、紙のにじみ止め薬品、印刷インキ用樹脂、粘着・接着剤用樹脂などを開発し、日本の産業の発展に大きく貢献してまいりました。

これからもロジンとともに社会貢献

地球環境への関心が社会で高まる中、荒川化学は、ロジンという自然の恵みを生かした事業をおこなう企業としての社会的責任も大きくなっていると考えております。そのため、地球環境に優しい製品の研究や開発に引き続き取り組んでまいります。併せて、お客様の多様なご要望にお応えできる生産・販売体制のいっそうの充実に注力してまいります。

製紙用薬品事業

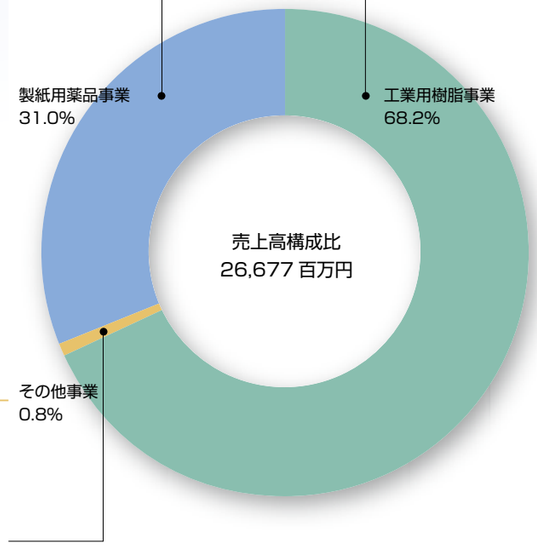
国内製紙業界は、景気低迷による大幅な需要の減少や在庫調整圧力の継続、安価な輸入紙の流通などにより、大規模な生産調整が継続されるなど、極めて低調に推移しました。また、中国製紙業界においては、紙の生産は内需を中心に回復しましたが、輸出向け梱包材の減少などが影響し、紙力増強剤の需要は低調に推移しました。このような環境のもと、当事業におきましては、国内外での大幅な需要の減少により、売上が低調に推移し、大幅な減収となりました。利益面ではコスト削減などを進め、増益となりました。

その結果、売上高は 82 億 79 百万円（前年同期比 26.4%減）、営業利益は 4 億 91 百万円（同 33.8%増）となりました。

その他事業

洗浄機械の売上が減少し、大幅な減収減益となりました。

その結果、売上高は 2 億円（前年同期比 56.2%減）、営業利益は 1 百万円（同 95.7%減）となりました。



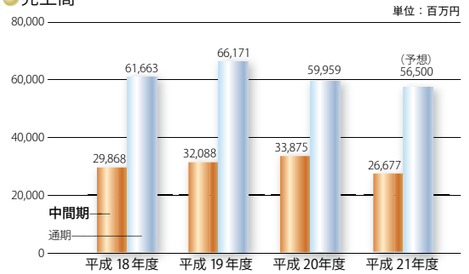
工業用樹脂事業

国内の印刷インキ、塗料および粘着・接着剤業界は、昨年から続く大幅な需要の減少が影響し、極めて低調に推移しました。このような環境のもと、当事業におきましては、印刷インキ用樹脂、粘着・接着剤用樹脂および機能性ファインケミカル製品などの売上が大幅に減少し、海外子会社の売上も低調に推移しました。一方、光硬化型樹脂は用途の拡大や電子工業業界の一部での需要回復などにより、売上が増加しました。全体では、国内外での大幅な需要の減少により、売上が低調に推移し、大幅な減収となりました。利益面ではコスト削減や高付加価値製品の拡販などを進めたものの、減益となりました。

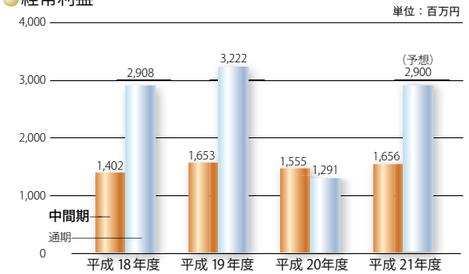
その結果、売上高は 181 億 97 百万円（前年同期比 17.9%減）、営業利益は 9 億 69 百万円（同 4.0%減）となりました。

業績の推移

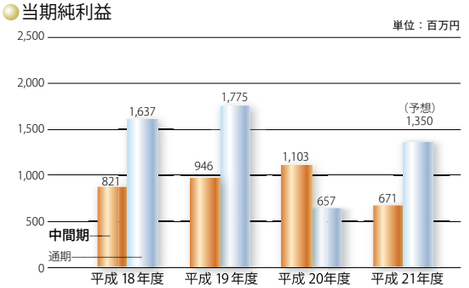
売上高



経常利益



当期純利益



連結財務諸表

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	前中間期（20.9.30 現在）	当中間期（21.9.30 現在）	前　期（21.3.31 現在）
[資産の部]			
流動資産	**40,169**	**38,040**	**36,563**
現金及び預金	3,969	7,825	6,928
受取手形及び売掛金	24,996	20,204	17,906
たな卸資産	10,058	9,004	10,675
その他	1,263	1,119	1,161
貸倒引当金	△ 116	△ 113	△ 107
固定資産	**24,053**	**22,501**	**21,968**
有形固定資産	**18,491**	**17,958**	**17,686**
建物及び構築物	6,852	6,417	6,465
機械装置及び運搬具	5,204	4,402	4,644
土地	5,271	5,065	5,270
その他	1,162	2,072	1,305
無形固定資産	**526**	**440**	**460**
投資その他の資産	**5,035**	**4,101**	**3,821**
投資有価証券	4,332	3,452	2,935
その他	714	671	894
貸倒引当金	△ 11	△ 22	△ 8
資産合計	**64,223**	**60,541**	**58,531**

（単位：百万円）

科　目	前中間期（20.9.30 現在）	当中間期（21.9.30 現在）	前　期（21.3.31 現在）
[負債の部]			
流動負債	**23,662**	**19,597**	**18,539**
支払手形及び買掛金	12,013	8,649	7,964
短期借入金	7,520	6,221	7,658
その他	4,129	4,726	2,916
固定負債	**2,906**	**4,554**	**4,755**
長期借入金	481	2,233	2,489
退職給付引当金	2,027	2,067	2,039
その他	397	253	226
負債合計	**26,568**	**24,151**	**23,294**
[純資産の部]			
株主資本	**35,287**	**35,058**	**34,589**
資本金	3,128	3,128	3,128
資本剰余金	3,350	3,350	3,350
利益剰余金	28,819	28,591	28,121
自己株式	△ 10	△ 10	△ 10
評価・換算差額等	**967**	**208**	**△ 440**
その他有価証券評価差額金	717	494	72
為替換算調整勘定	250	△ 285	△ 513
少数株主持分	**1,339**	**1,122**	**1,088**
純資産合計	**37,654**	**36,389**	**35,237**
負債純資産合計	**64,223**	**60,541**	**58,531**

連結損益計算書

（単位：百万円）

科　目	前中間期（20.4.1 から 20.9.30 まで）	当中間期（21.4.1 から 21.9.30 まで）	前　期（20.4.1 から 21.3.31 まで）
売上高	**33,875**	**26,677**	**59,959**
売上原価	27,042	20,258	48,585
売上総利益	**6,833**	**6,418**	**11,374**
販売費及び一般管理費	5,413	4,955	10,257
営業利益	**1,420**	**1,463**	**1,117**
営業外収益	303	297	567
営業外費用	167	104	392
経常利益	**1,555**	**1,656**	**1,291**
特別利益	283	0	310
特別損失	15	415	319
税金等調整前中間（当期）純利益	**1,823**	**1,240**	**1,282**
法人税、住民税及び事業税	**663**	**711**	**498**
法人税等調整額	**34**	**△ 175**	**156**
少数株主利益	**22**	**34**	**△ 29**
中間（当期）純利益	**1,103**	**671**	**657**

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科　目	前中間期（20.4.1 から 20.9.30 まで）	当中間期（21.4.1 から 21.9.30 まで）	前　期（20.4.1 から 21.3.31 まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	**1,640**	**3,726**	**3,261**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△ 1,099**	**△ 828**	**△ 1,858**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△ 576**	**△ 2,027**	**1,645**
現金及び現金同等物に係る換算差額	**△ 8**	**29**	**△ 146**
現金及び現金同等物の増加額（△は減少額）	**△ 44**	**899**	**2,901**
現金及び現金同等物の期首残高	**3,911**	**6,812**	**3,911**
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	**3,866**	**7,712**	**6,812**

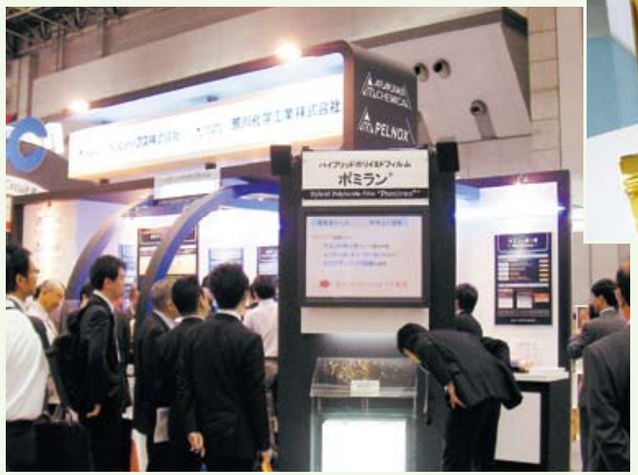
（注）第2四半期連結累計期間を中間期と読み替えております。

新規ポリイミドフィルムの工業化技術確立

当社は、これまで有機・無機ハイブリッド樹脂「コンポセラン」の事業化を進めてまいりましたが、これをさらに発展させ、タイマイド・テック社（本社：台湾）と共同で、ウェットめっきが可能なポリイミドフィルム「ポミラン」の工業化に成功いたしました。

「ポミラン」は、当社独自のハイブリッド技術とタイマイド・テック社のフィルム化技術の融合によって開発されたポリイミドフィルムであり、ナノサイズのシリカがポリイミドフィルムの中に均一に分散した構造を有しています。

当社は回路基板業界に「ポミラン」を使用した連続ウェットめっきプロセスによる回路基板の作製を提案いたします。



「JPCA　Show　2009」でも好評を博しました。

会社概要（平成 21 年 9 月 30 日現在）

商号	荒川化学工業株式会社
創業	明治 9 年（1876年）
設立	昭和 6 年 1 月（1931年）
資本金	31 億 2,830 万円
グループ従業員	1,248名
主な事業内容	次の製品の製造および販売 製紙用薬品、印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂、 合成ゴム重合用乳化剤、粘着・接着剤用樹脂、 食品添加物用樹脂、電子材料用樹脂、 精密部品洗浄システムおよびその関連機器
ホームページアドレス	http://www.arakawachem.co.jp

役　員（平成 21 年 9 月 30日現在）

代表取締役社長	末村長弘
常務取締役	中尾光良
取締役	松本圭三
取締役	三谷育洋
取締役	河村敏嗣
取締役	谷奥勝三
取締役	眞鍋好輝
取締役	延廣徹
取締役	荒川壽正
監査役（常勤）	山中勝之
監査役（常勤）	蒔田宗治
監査役	岩城本臣
監査役	中西隆夫

（注）監査役岩城本臣および中西隆夫の両氏は、社外監査役であります。

株式の状況（平成 21 年 9 月 30日現在）

発行可能株式総数	52,800,000 株
発行済株式の総数	20,150,400 株
株主数	3,360 名

大株主

株主名	持株数	出資比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,383 千株	6.87 %
荒川化学従業員持株会	1,025	5.09
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	988	4.91
株式会社三菱東京ＵＦＪ銀行	940	4.67
荒川壽正	902	4.48
荒川彦二	410	2.04
三菱化学株式会社	406	2.02
資産管理サービス信託銀行株式会社（信託口）	403	2.00
株式会社みずほ銀行	397	1.97
株式会社三井住友銀行	396	1.97

グループ会社の状況（平成 21 年 9 月 30日現在）

会社名	資本金	議決権比率
広西荒川化学工業有限公司	12,000 千米ドル	100%
南通荒川化学工業有限公司	5,500千米ドル	100%
梧州荒川化学工業有限公司	3,500千米ドル	100%
ペルノックス株式会社	60百 万 円	100%
高圧化学工業株式会社	60百 万 円	100%
ARAKAWA CHEMICAL（THAILAND）LTD.	119,000千タイバーツ	90%
台湾荒川化学工業股份有限公司	149,226 千新台幣元	60%
ARAKAWA CHEMICAL（USA）INC.	1,400千米ドル	100%
カクタマサービス株式会社	100百 万 円	100%
HONG KONG ARAKAWA CHEMICAL LTD.	4,000 千米ドル	60%
厦門荒川化学工業有限公司	5,603 千米ドル	間接 60%
ARAKAWA Europe GmbH	52 千ユーロ	40%
広西梧州荒川化学工業有限公司	6,000千米ドル	100%

株主メモ

事業年度	毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで
定時株主総会	6 月中
基準日	定時株主総会　3 月 31 日 剰余金の配当　期末　3 月 31 日 中間　9 月 30 日
公告方法	日本経済新聞
株主名簿管理人 特別口座の口座管理人	三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社
同連絡先 （お問い合せ先）	大阪市中央区伏見町3丁目６番3号 三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社　大阪証券代行部 電話 0120-094-777（通話料無料）

（ご注意）

1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱 UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱 UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱 UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱 UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。

荒川化学工業株式会社

大阪市中央区平野町1丁目3番7号 〒541-0046
電話 06-6209-8500（代表）

PRINTED WITH SOY INK TM
地球に優しい大豆インクと再生紙を使用しております。
この SOY INK マークは米国大豆協会承認マークです。